

## SDGsは課題と夢を語る共通言語!

仕事と暮らしと遊びが一つになるような「協力」を目指して



国際医療協力局  
連携協力部・連携推進課長  
**藤田 雅美 氏**

国立研究開発法人国立国際医療研究センター(NCGM)国際医療協力局連携協力部の藤田雅美先生は、WHOでのHIV対策を中心とした各国の活動を経て、今年NCGMに入局。現在は、2015年の国連サミットで採択された国際社会共通の目標「SDGs」に関連する仕事等に従事している。WHOでの活動やSDGsとの出会いや思いを語っていただいた。

人々と一緒に  
問題を解決する公衆衛生

——藤田先生は、なぜ医師になろうと思ったのですか。  
**藤田** 私が小学4年生の頃、自分のクラスが防空壕において、拳銃で撃たれた。社会正義のようなものにこだわりがあつたのですが、戦争も含めて世の中の問題を白黒分けることに疑問を感じてよく分からなくなりました。中学2年生の時、途上国で働くHIVの中のHIVという狭い箱の中からは随分とかけ離れたところに来てしまつたなあ、と思うようになります。そんな時に、ある先輩からソーシャルビジネスを勧められました。それが力としては圧倒的に大きいのですが、調べていくうちに全く違うことを知りました。相当数の企業の人たちがさまざま思いを抱えて社会に貢献する取り組みをしていて、「悪」のようなイメージを持つことなどを見つけて衝撃を受けました。

保健医療分野においても、現状では垂直的な感染症対策が中心ですが、それを保健医療システムや社会全体の健康の取り組みに広げていく人には、保健医療を専門としている人が、その努力だけでは限界がある。SDGsの流れと統合した形でさまざまな分野の人たちと一緒にやつていてSDGs的なことが行われていることなどを知つて衝撃を受けました。

藤田 力局の今後の方針性をSDGsとの関わりから見通すタスクフォースです。また東日本大震災以降、NCGMで健康関係の支援をしてきた東松島市が、日本で29カ所だけの「SDGs未来都市」に選ばれ、今後の同市との協力関係をどう広げていくか他、日本においてSDGsへの興味

——藤田先生は、なぜ医師になろうと思ったのですか。  
**藤田** 大学の頃「民衆演劇ワークショップ」に参加する機会がありました。学歴も立場も違ういろいろな人たちが、生活にまつわるさまざまなもので、音や歌、絵、踊り、演劇を通して一緒に考えると、というもので、少なく、社会の中で人々と一緒に問題を解決していくことは、すごく価値のあることではと思い、医学部の中でもそういうことを探せるのは公衆衛生だろうと考えました。

——仕事を白黒分けることに疑問を感じてよく分からなくなりました。社会正義のようなものにこだわりがあつたのですが、戦争も含めて世の中の問題を白黒分けることに疑問を感じてよく分からなくなりました。藤田 先生は、SDGsによってどうVは、テクノロジーも治療法もないうことに気付きましたか。またどういふことで、HIV関連に長く携わった。社会正義のようなものにこだわりがあつたのですが、戦争も含めて世の中の問題を白黒分けることに疑問を感じてよく分からなくなりました。藤田 先生は、SDGsによってどうVは、テクノロジーも治療法もないうことに気付きましたか。またどういふことで、HIV関連に長く携わった。社会正義のようなものにこだわりがあつたのですが、戦争も含めて世の中の問題を白黒分けることに疑問を感じてよく分からなくなりました。

——4番目は、「一人の人が『仕事』、『暮らし』、『遊び』それそれにいくつもの名刺を持つ」ということの大切さです。「協力」というのは、自分が持つている時間の一部を使って何か貢献するわけで、もしも本業で手一杯

どでは測れない、非常に素晴らしいものがあると感じました。この経験はHIV治療が出てきた後WHOに移つてからは、そのターゲットを周辺国に広げる仕事をしました。現在は、HIV陽性と分かつた。学歴も立場も違ういろいろな人が、生活にまつわるさまざまなもので、音や歌、絵、踊り、演劇を通して一緒に考えると、というもので、少なく、社会の中で人々と一緒に問題を解決していくことは、すごく価値のあることではと思い、医学部の中でもそういうことを探せるのは公衆衛生だろうと考えました。

——藤田先生は、なぜ医師になろうと思ったのですか。  
**藤田** 大学の頃「民衆演劇ワークショップ」に参加する機会がありました。学歴も立場も違ういろいろな人たちが、生活にまつわるさまざまなもので、音や歌、絵、踊り、演劇を通して一緒に考えると、というもので、少なく、社会の中で人々と一緒に問題を解決していくことは、すごく価値のあることではと思い、医学部の中でもそういうことを探せるのは公衆衛生だろうと考えました。

ドクターズプラザ 2019.1

### SDGsとは

「SDGs(エスディージーズ)」は、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称で、2015年9月にニューヨーク国連で開催されたサミットにおいて193の加盟国のリーダーが一堂に会して決めた、国際社会共通の目標のこと。2001年に国連サミットで採択され、2015年に達成期限を迎えた「ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)」に替わる、新たな世界の目標として定められた。MDGsでは、特に途上国の窮状を改善することに焦点を当てた8つの目標(ゴール)が掲げられたが、SDGsでは「No one will be left behind = 誰一人取り残さない」というコンセプトのもと、日本など先進国も含めた全ての国々の課題も含め、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなる持続可能な開発目標を採択。MDGsから残された課題や、近年顕在化してきた都市・気候変動・格差などの課題の解決を目指している。

(出典: 国立国際医療研究センター 国際医療協力局発行「NEWSLETTER」vol.8 2018)

——5番目は、「一人の人が『仕事』、『暮らし』、『遊び』それそれにいくつもの名刺を持つ」ということの大切さです。「協力」というのは、自分が持つている時間の一部を使って何か貢献するわけで、もしも本業で手一杯

——4番目は、「一人の人が『仕事』、『暮らし』、『遊び』それそれにいくつもの名刺を持つ」ということの大切さです。「協力」というのは、自分が持つている時間の一部を使って何か貢献するわけで、もしも本業で手一杯

——5番目は、「一人の人が『仕事』、『暮らし』、『遊び』それそれにいくつもの名刺を持つ」ということの大切さです。「協力」というのは、自分が持つている時間の一部を使って何か貢献するわけで、もしも本業で手一杯

ドクターズプラザ 2019.1

オフィサーとしてフィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマーへと異動していく中で、各国のHIV対策体制づくりの中核を担うチームの一員として仕事をしました。一方お金や組織間の競争など、さまざまある問題に直面するうちにすり減つてきました。ある日本の新聞記者に「今までまだセンシティブな問題で、他人に知られたくないという気持ちもあり、以前より一緒に何かをする感覚者が多くなっています。一方モメンタムは下がってきていて、これからは途上国でも慢性疾患が増えることが予想されます。HIV感染者はみんなでまだまだセントラルで、慢性疾患が感染するので悩むことはない、といふ付きが浮かびました。それが医師を意識した最初です。これが医師が公衆衛生の分野に進んだのは、